

平成30年度 児童生徒の生活習慣病予防対策 肥満統計の概要と考察

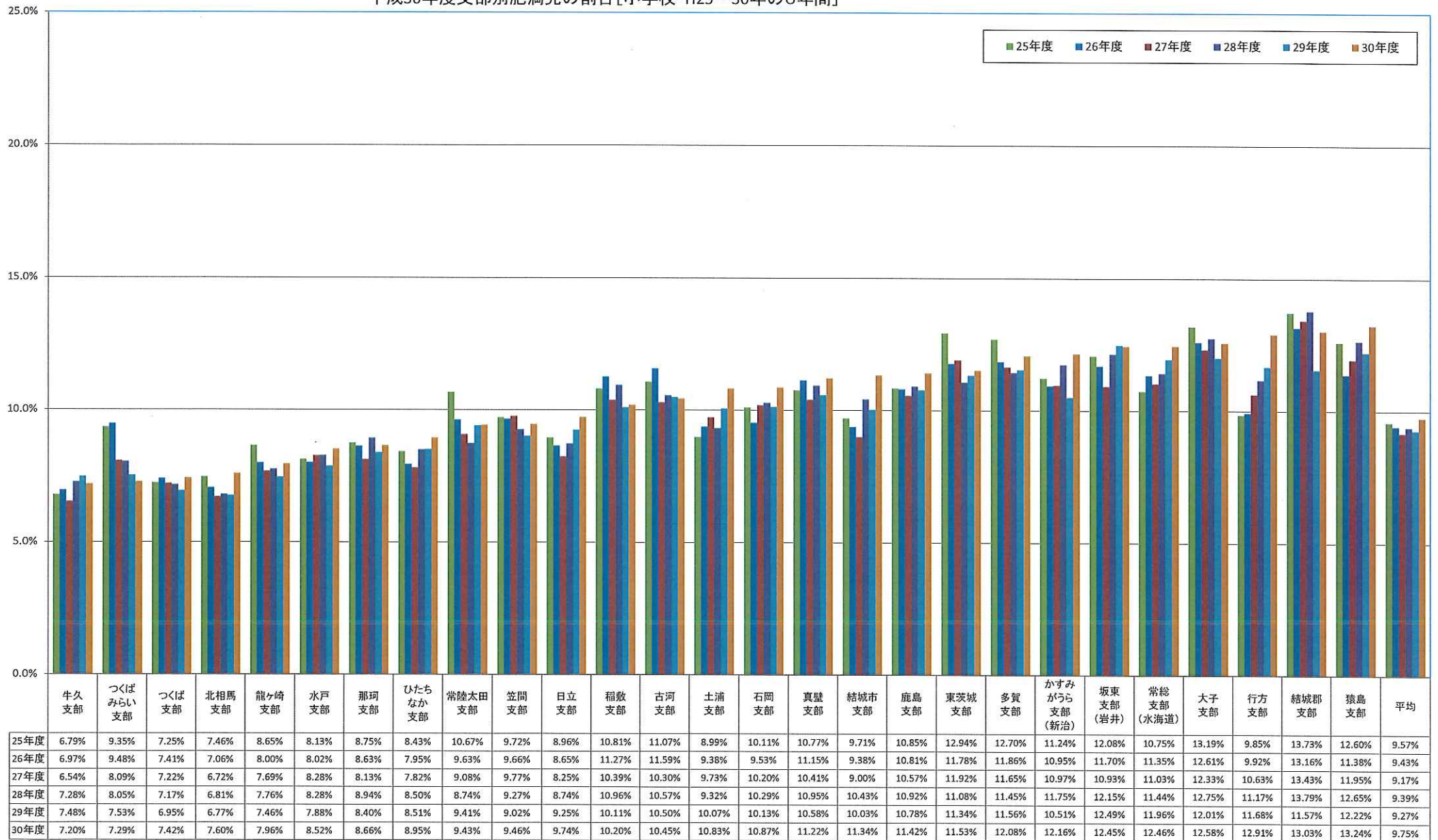
目 次			
1. 支部別肥満児の割合[小学校]	図1,図2,図3	9. 支部別男女やせの割合[小学校]	図28
2. [中学校]	図5,図6,図7	10. [中学校]	図29
3. 支部別高度肥満児の割合[小学校]	図16・17	11. 同一集団やせの9年間経時推移[男子]	図32
4. [中学校]	図18・19	12. [女子]	図33
5. 同一集団の9年間の経時推移[男子]	図14	13. 学年別肥満児の全国との比較[男子]	図34
6. [女子]	図15	14. [女子]	図35
7. 支部別やせの割合[小学校]	図23	15. 学年別やせの全国との比較[男子]	図36
8. [中学校]	図24	16. [女子]	図37
		17. 男女別肥満児・高度肥満児の割合の推移[小学校]	図4
		18. [中学校]	図8
		19. 肥満調査結果の考察	

肥満対策委員会			
委員長	山脇 英範	委員	和賀 徳恵
委員	岩淵 敦	委員	杉山 紀子
委員	篠原 宏行	委員	高野 厚子
委員	荻野 義重	委員	権田 多美子
委員	戸崎 五十三	委員	飛田 昭子
		委員	片山 美千恵
		委員	根本 光子

※詳細は各支部学校保健会事務局送付のCDをご覧ください。(抜粋のみ掲載)

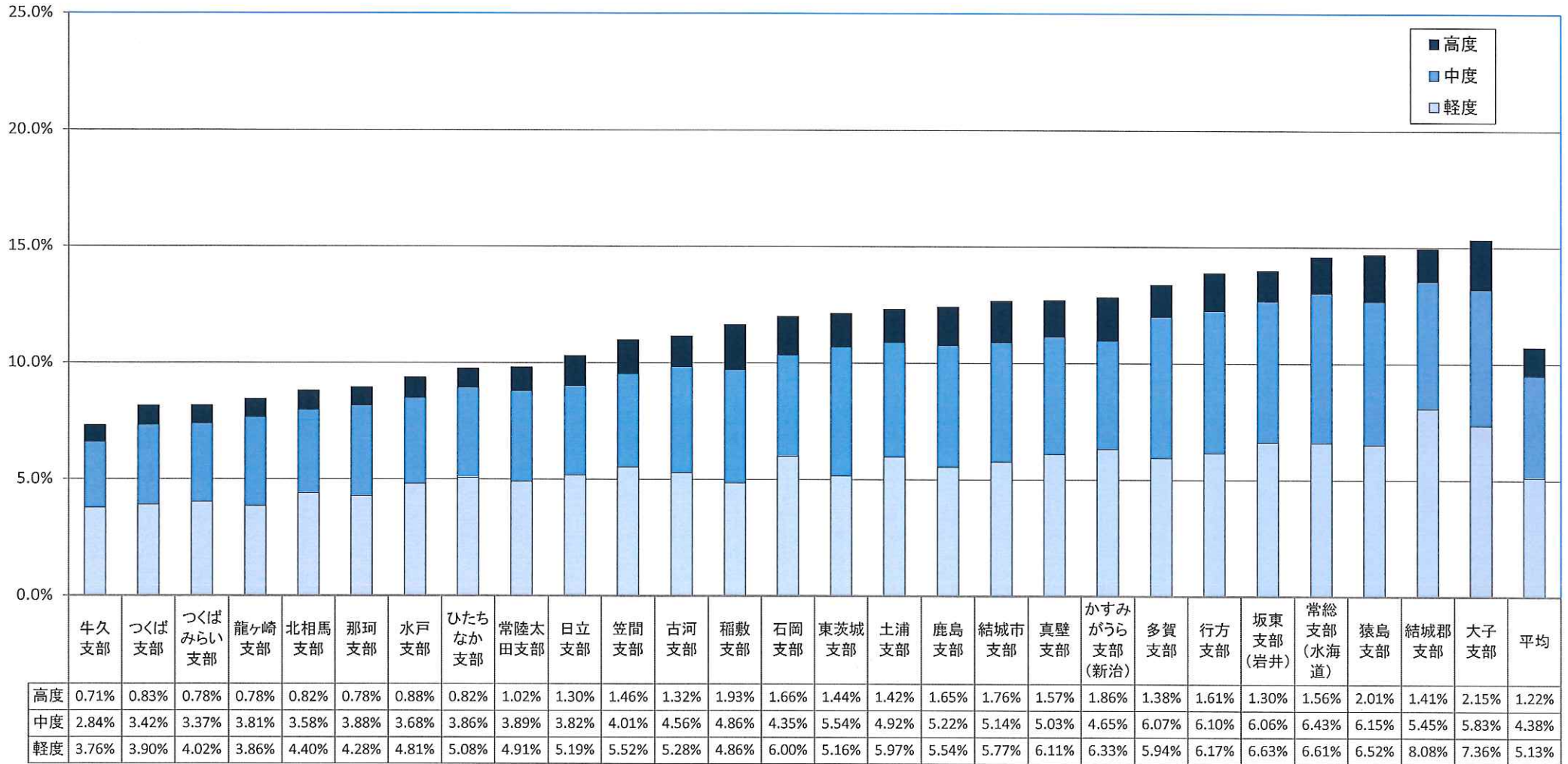
平成30年度支部別肥満児の割合〔小学校・H25～30年の6年間〕

図1



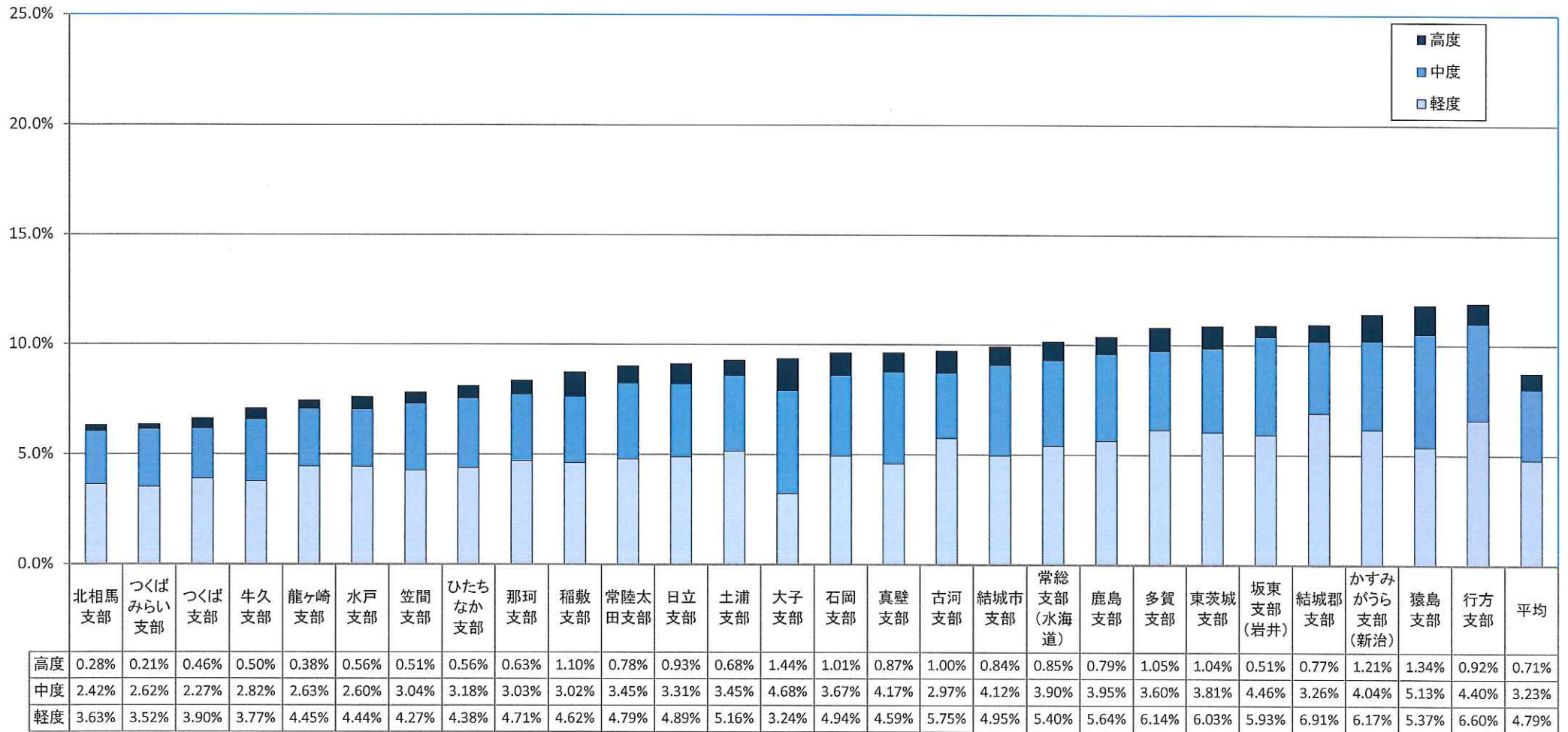
平成30年度支部別肥満児の割合[小学校男子]

図2



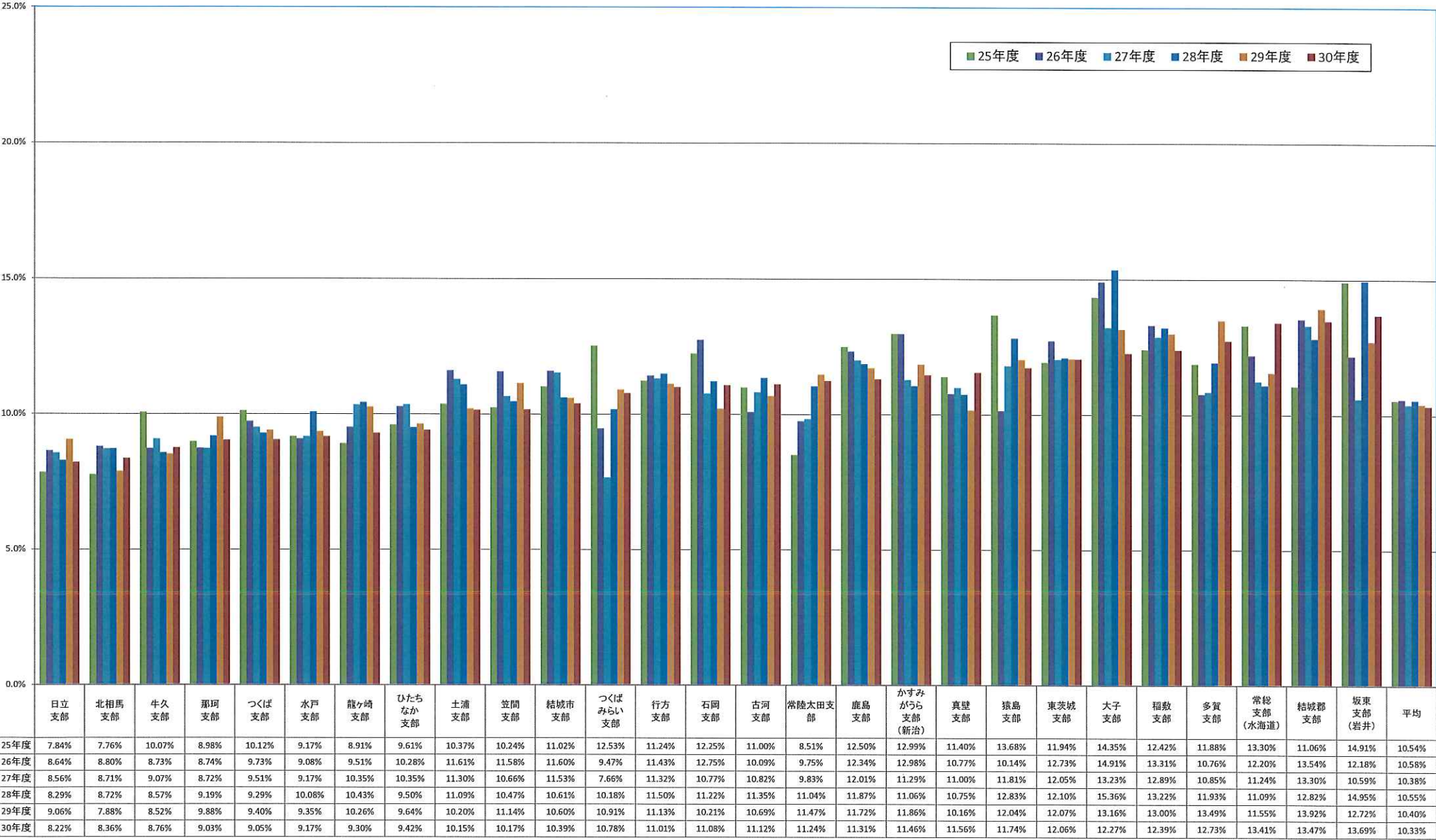
平成30年度支部別肥満児の割合[小学校女子]

図3



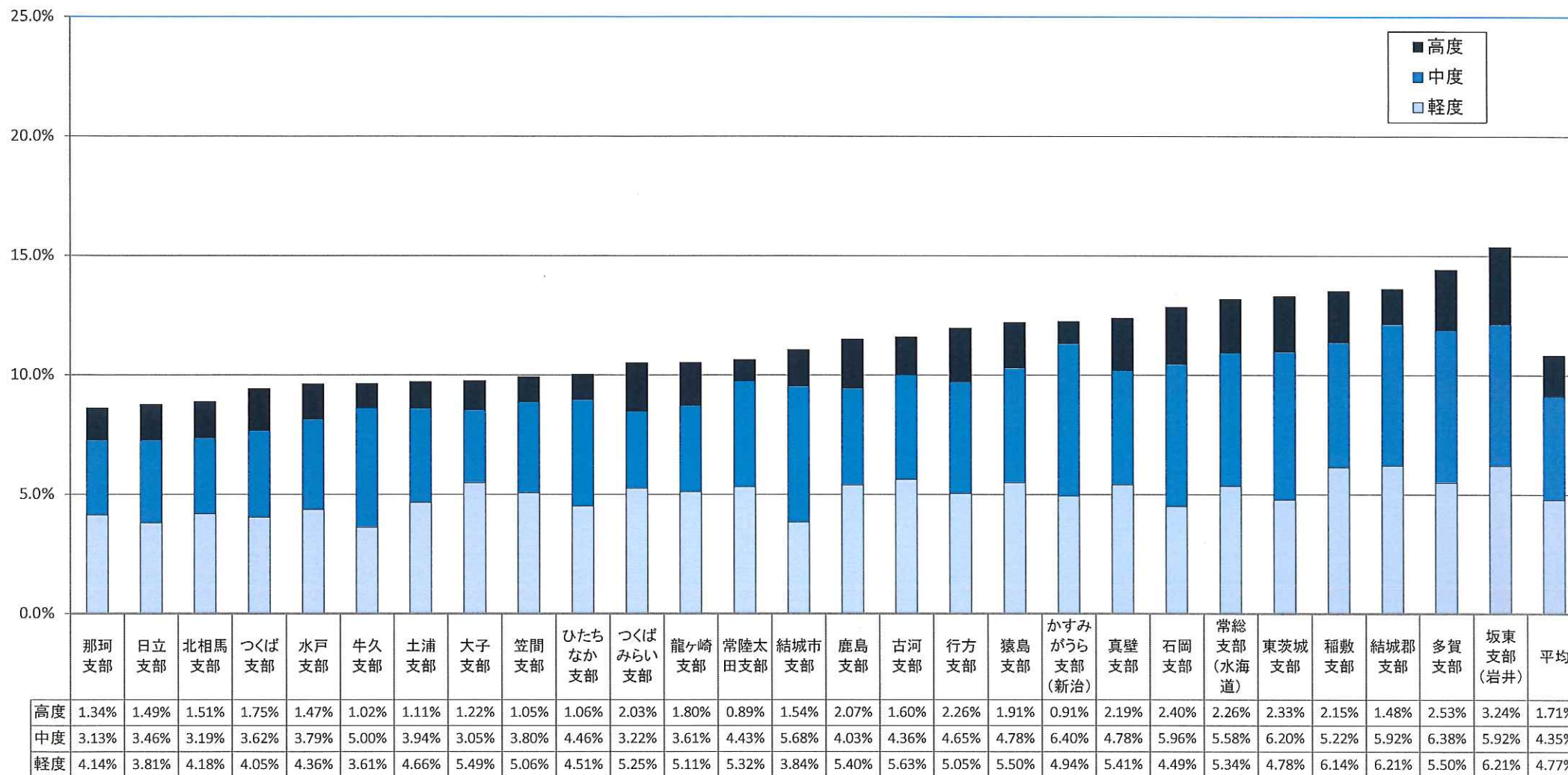
平成30年度支部別肥満児の割合[中学校・H25～30年の6年間]

図5



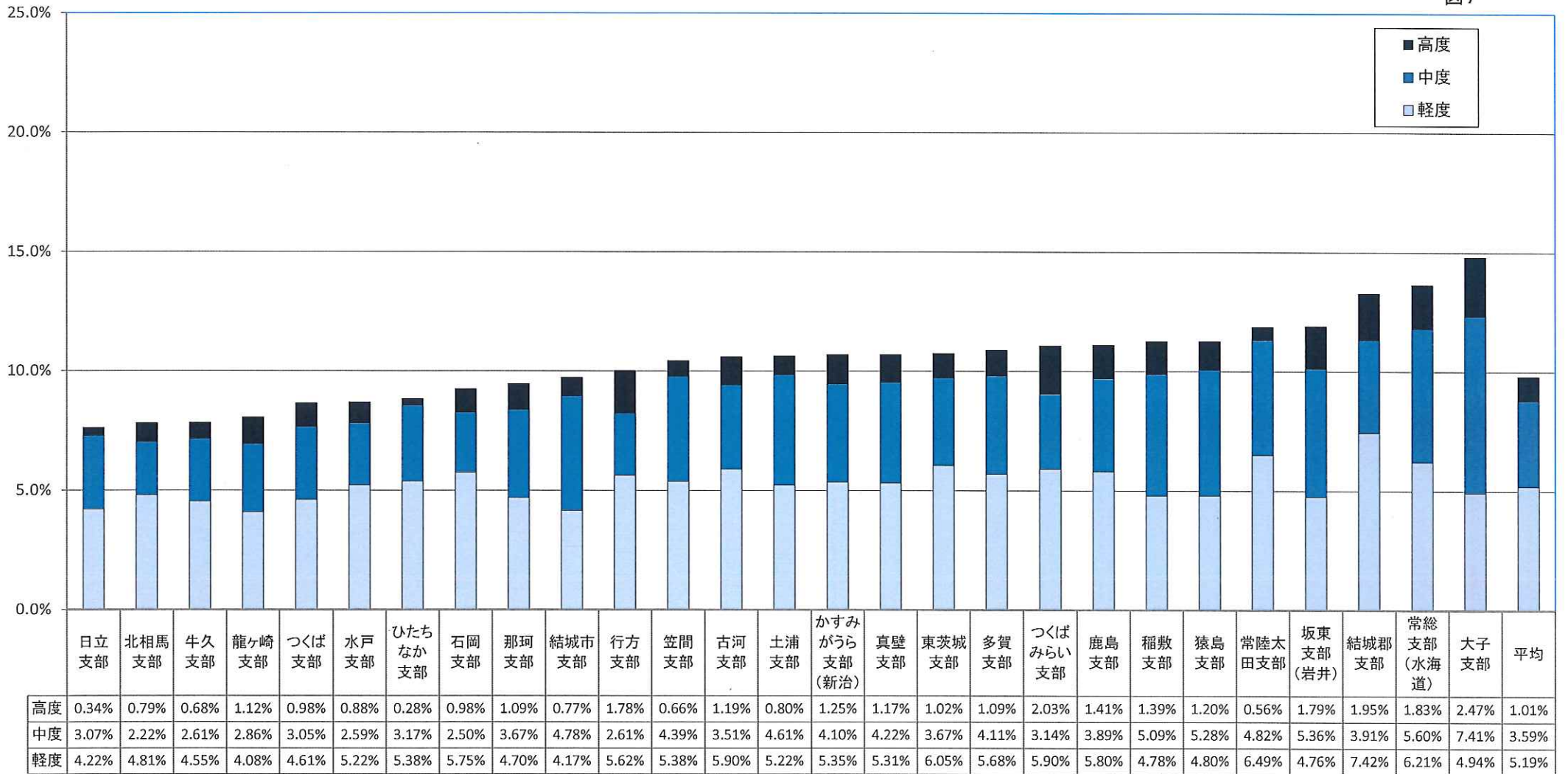
平成30年度支部別肥満児の割合[中学校男子]

図6



平成30年度支部別肥満児の割合[中学校女子]

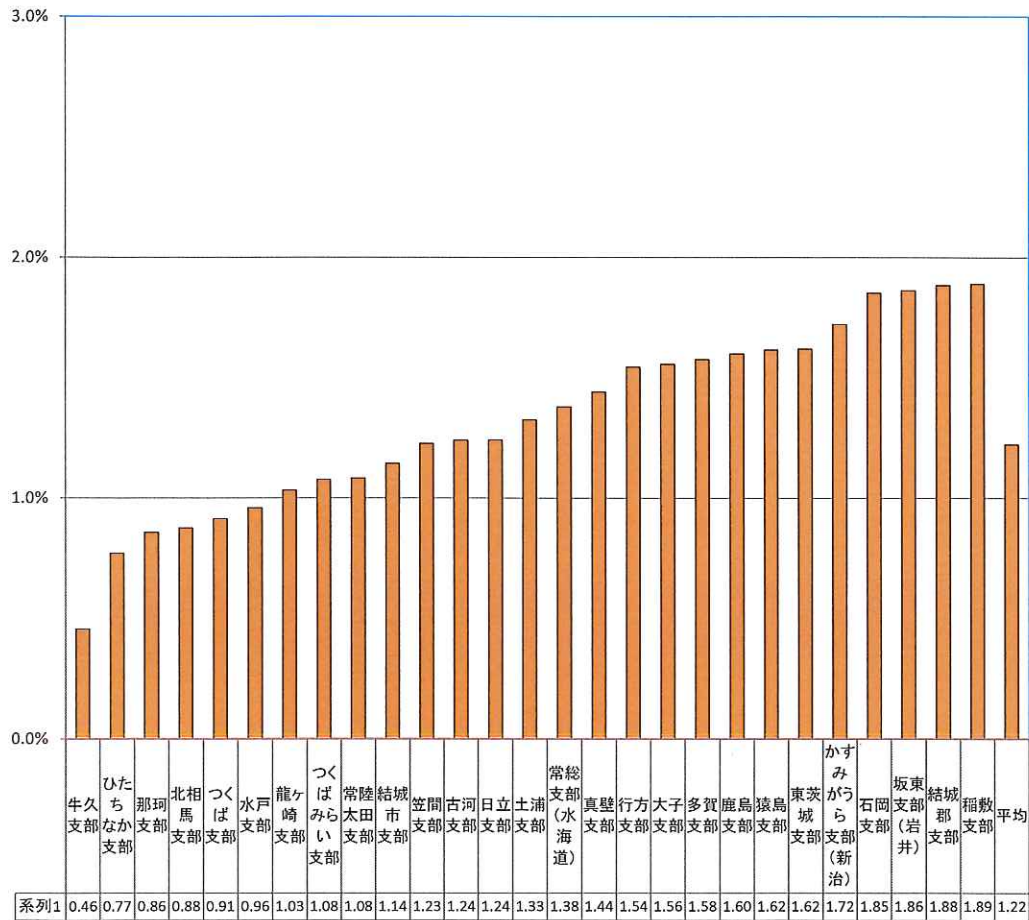
図7



平成30年度支部別6年間の高度肥満児の割合平均値[小学校]

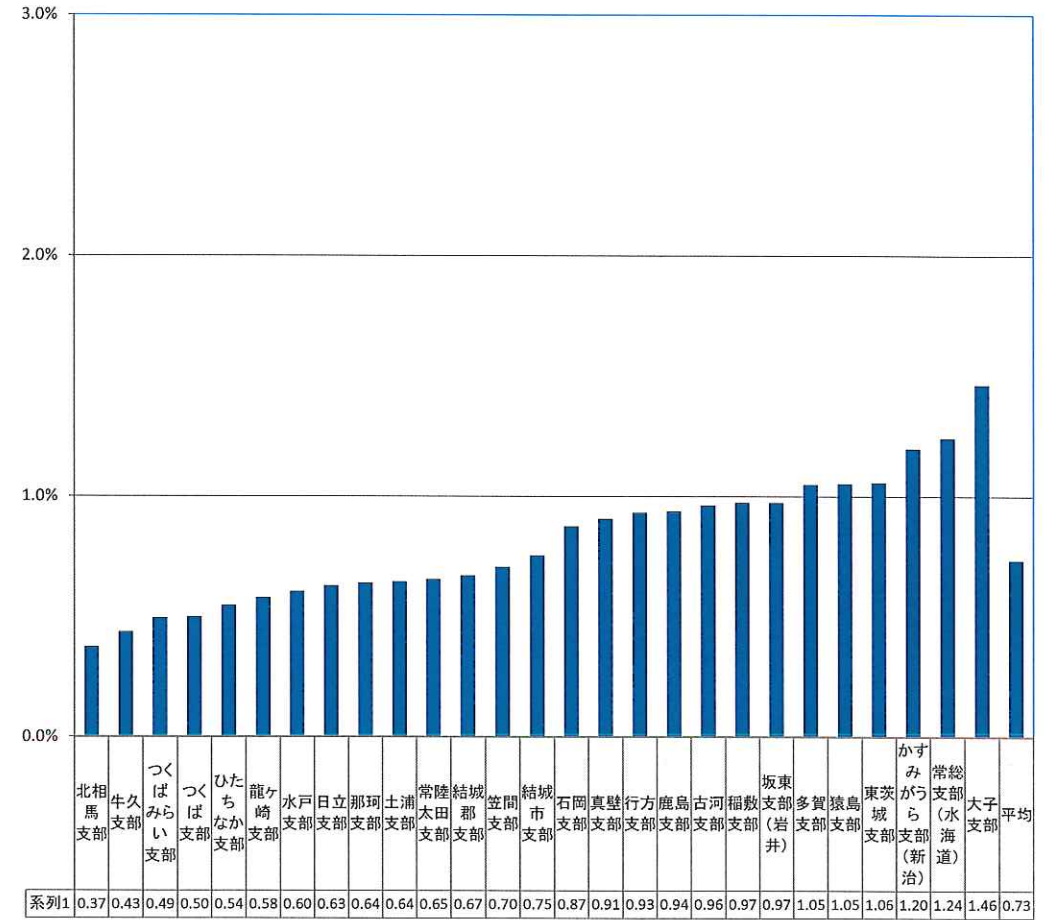
[男子]

図16



[女子]

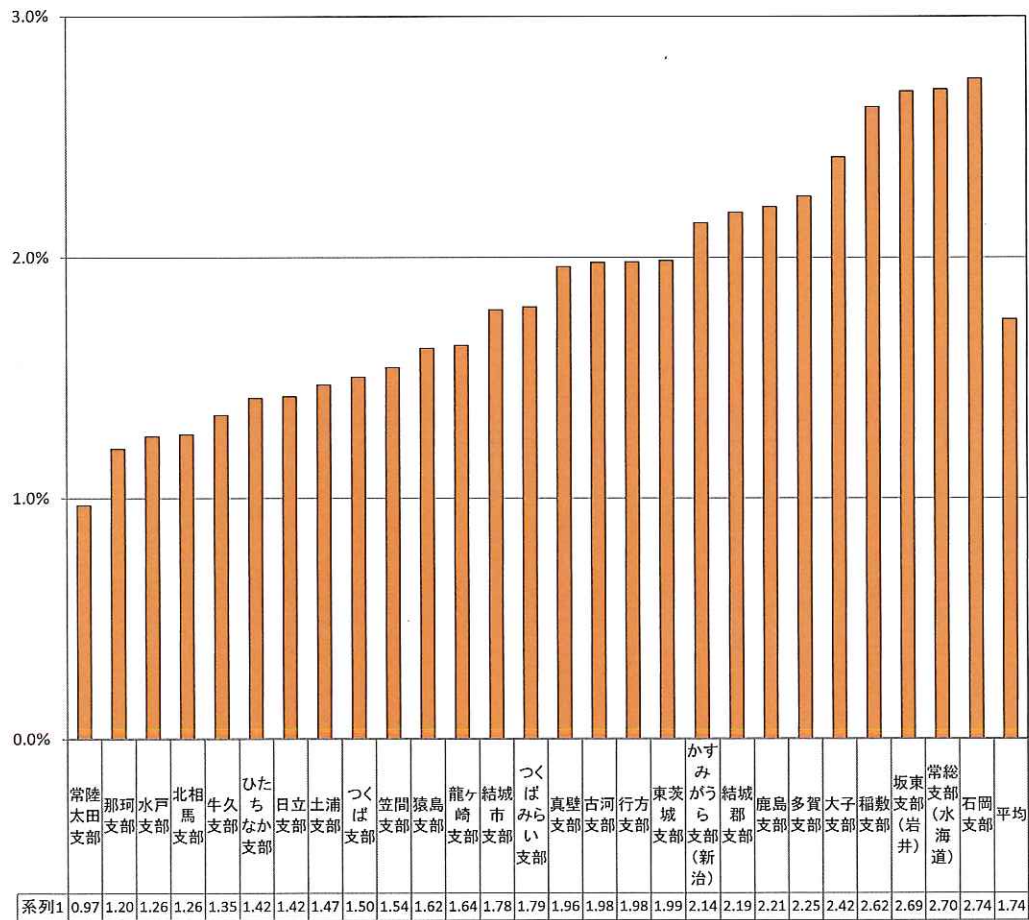
図17



平成30年度支部別6年間の高度肥満児の割合平均値[中学校]

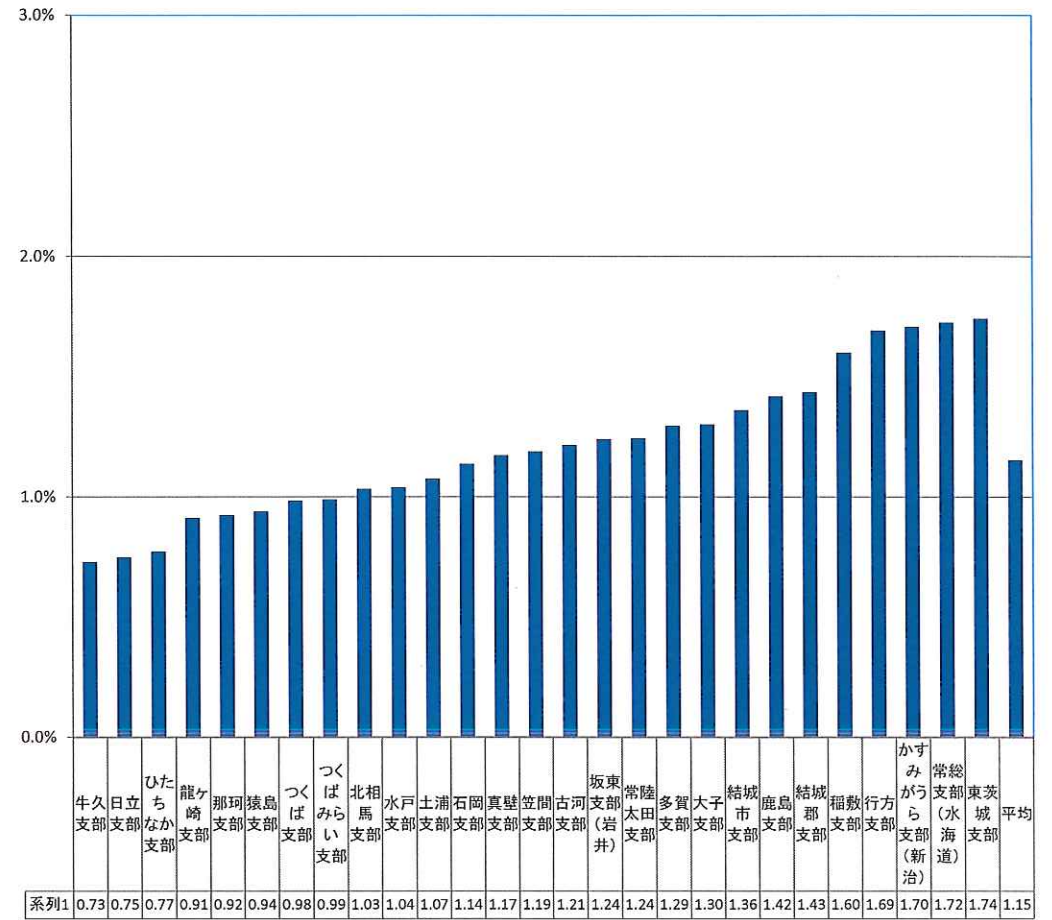
[男子]

図18



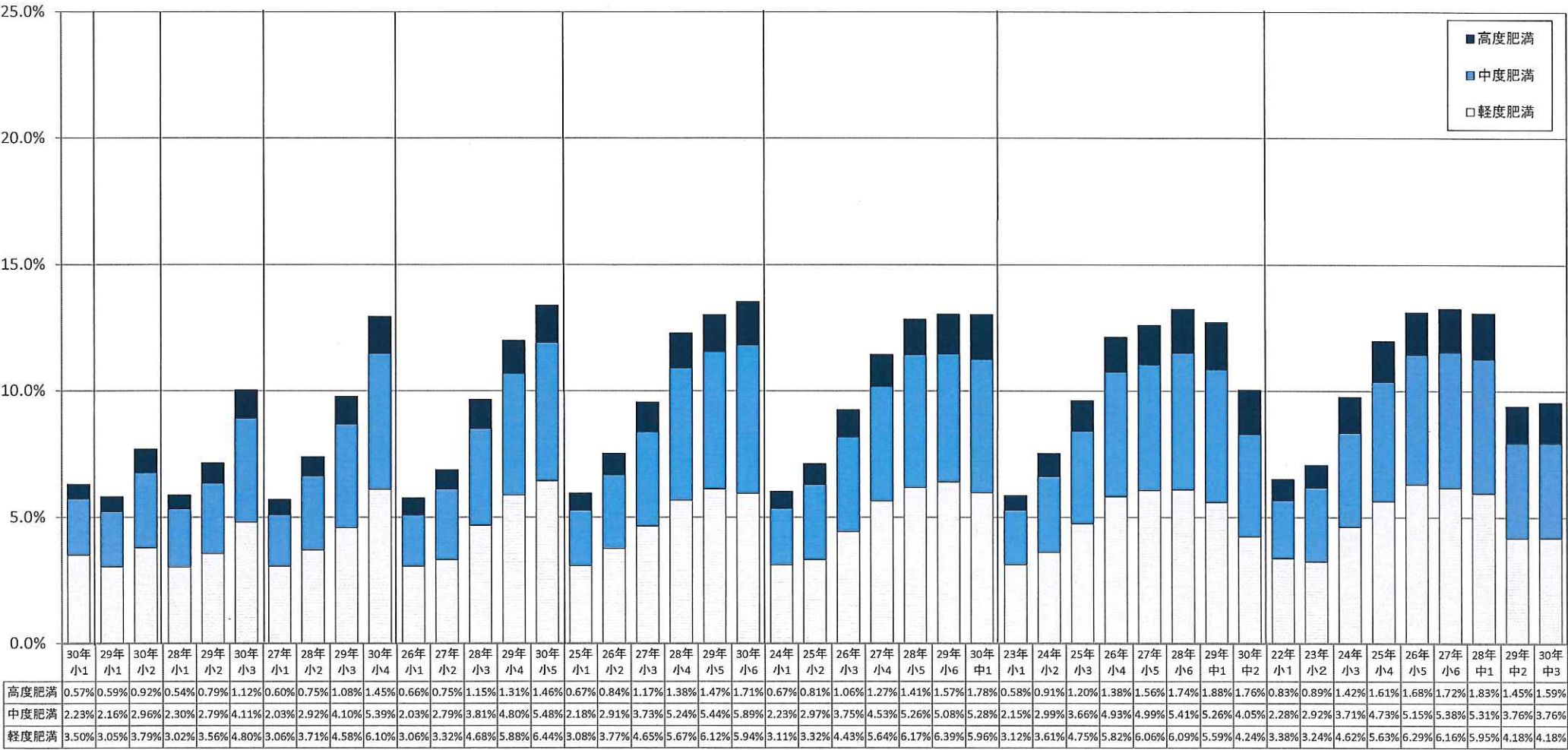
[女子]

図19



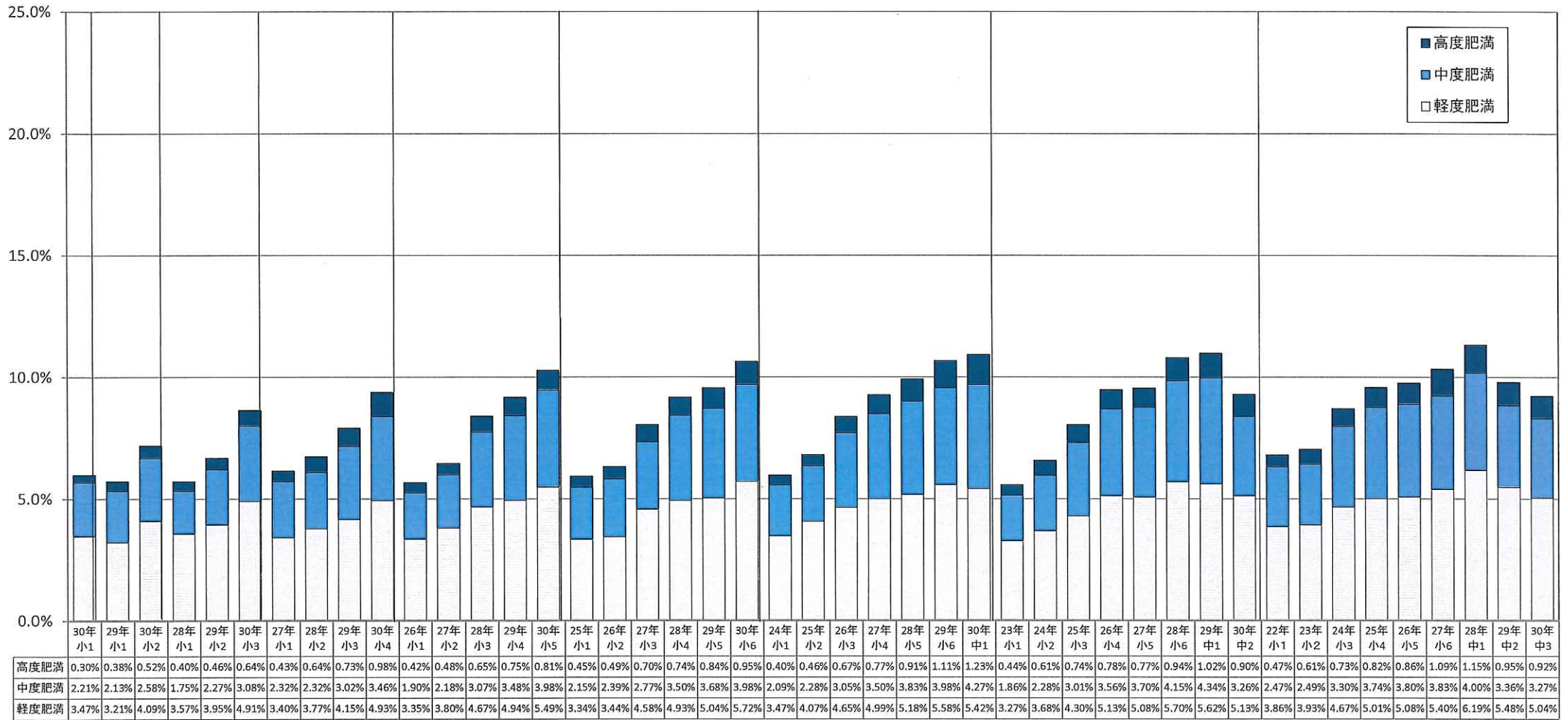
同一集団の9年間の経時推移[男子]

図14



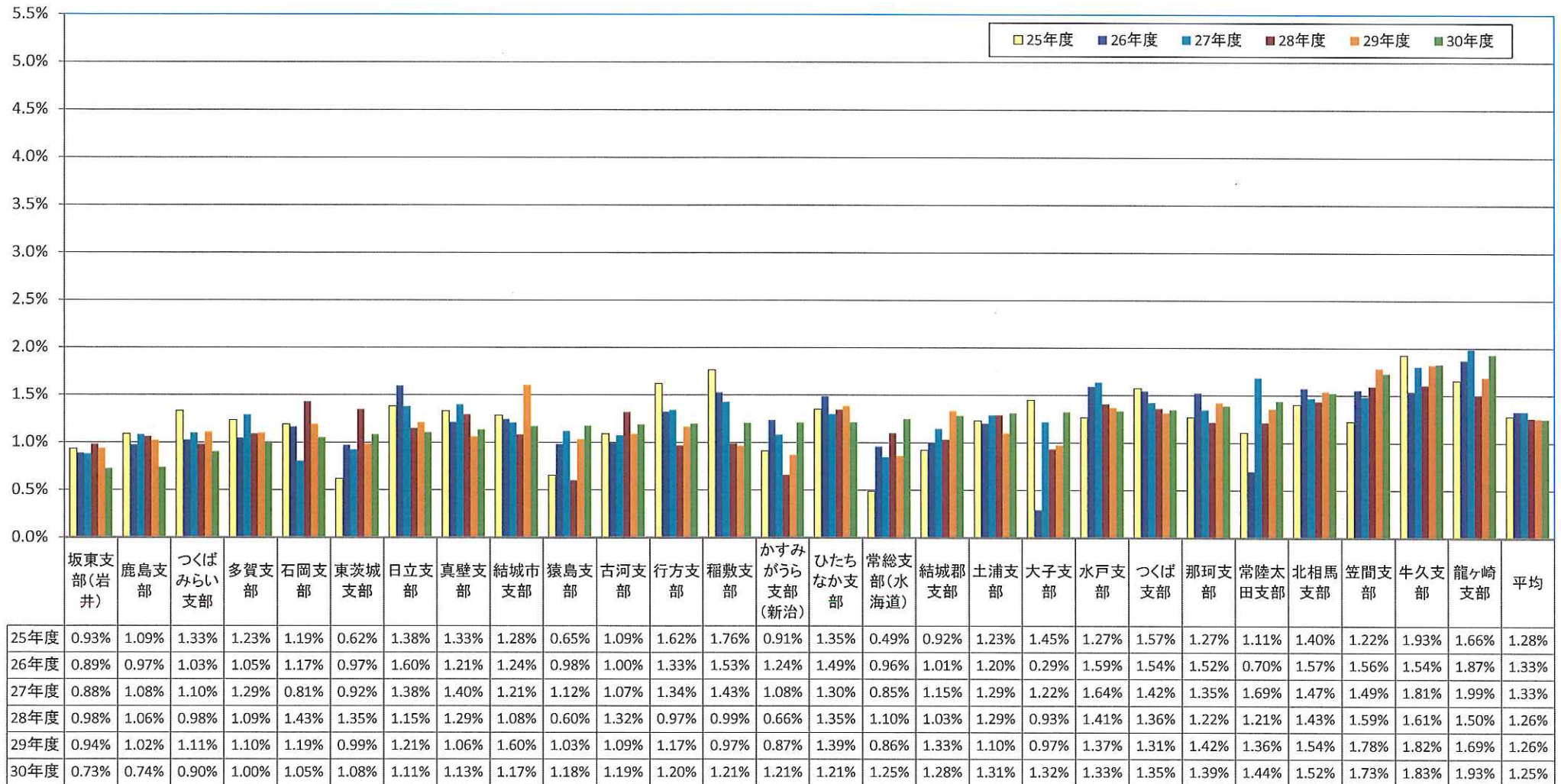
同一集団の9年間の経時推移[女子]

図15



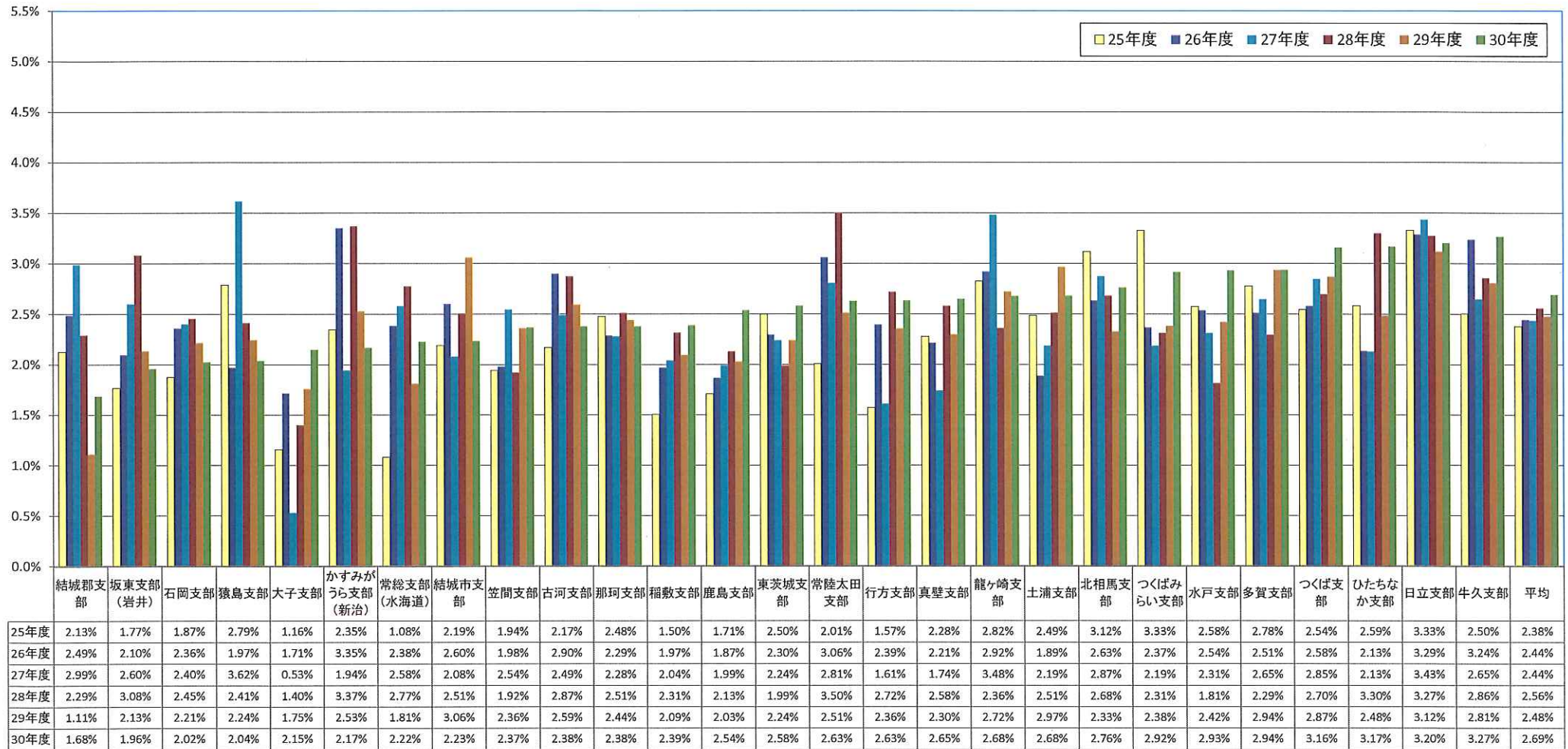
平成30年度支部別やせの割合〔小学校〕

図23



平成30年度支部別やせの割合〔中学校〕

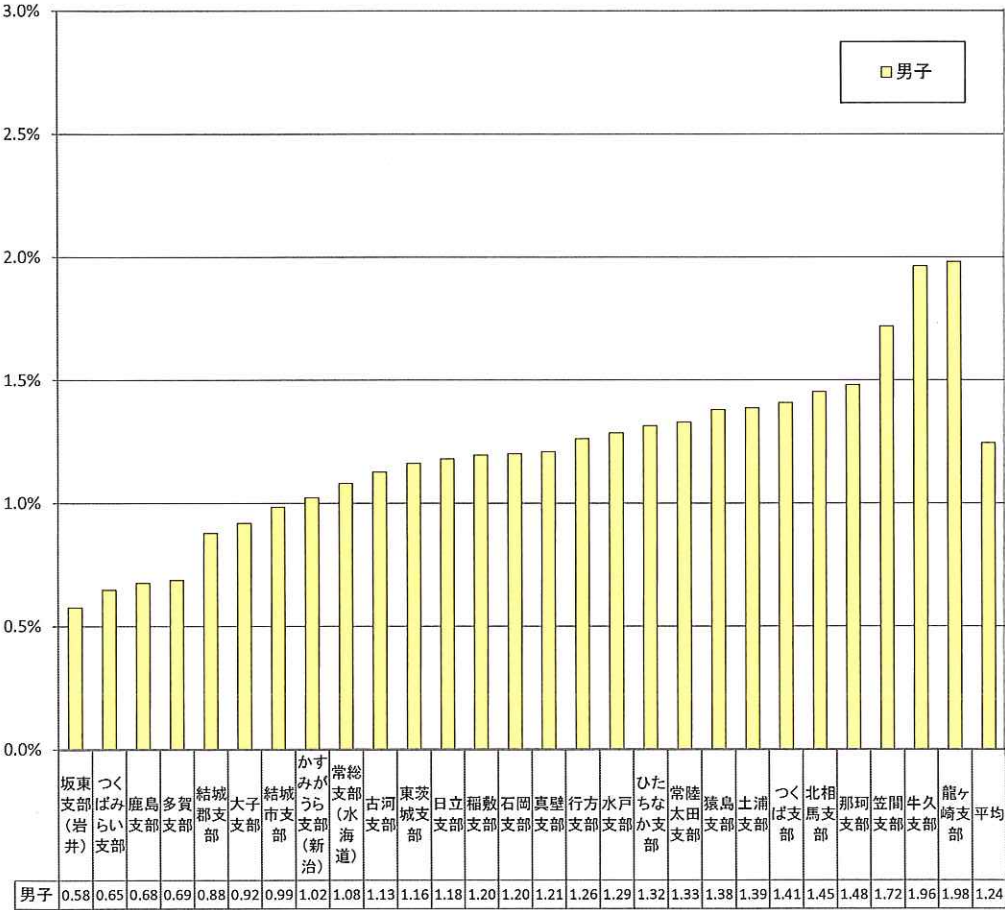
図24



平成30年度支部別やせの割合〔小学校〕

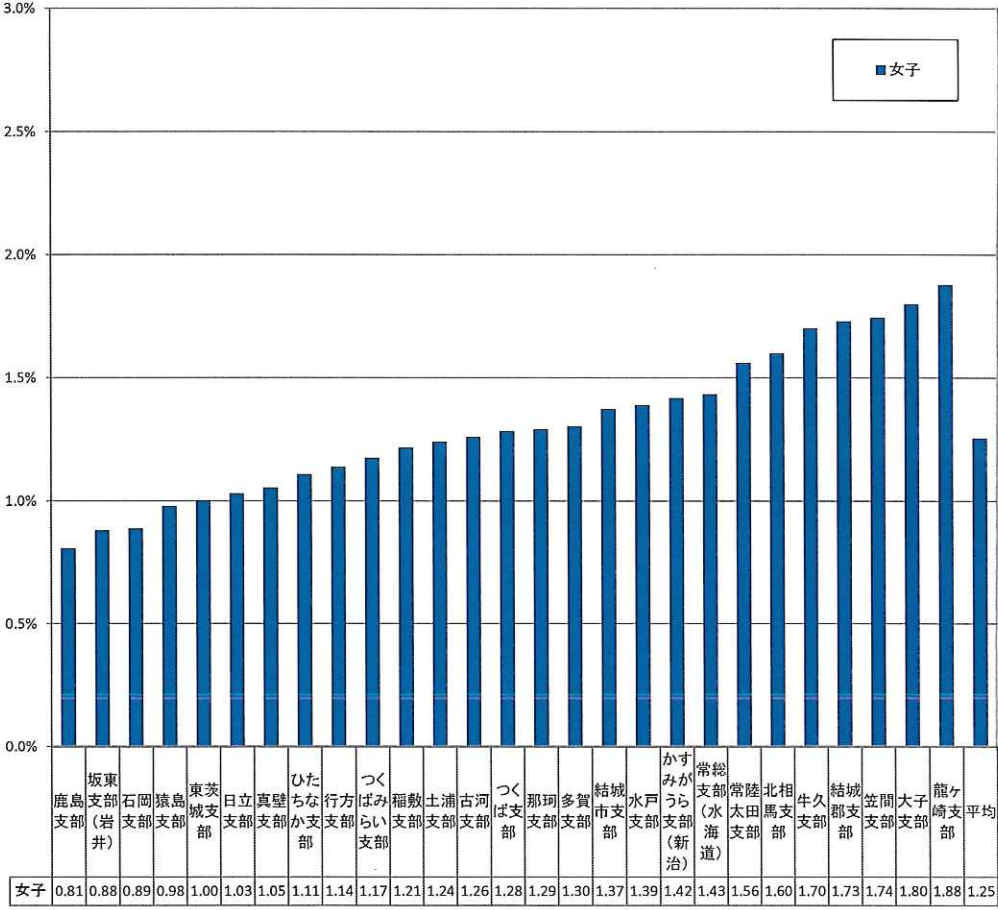
〔男子〕

図28－1



〔女子〕

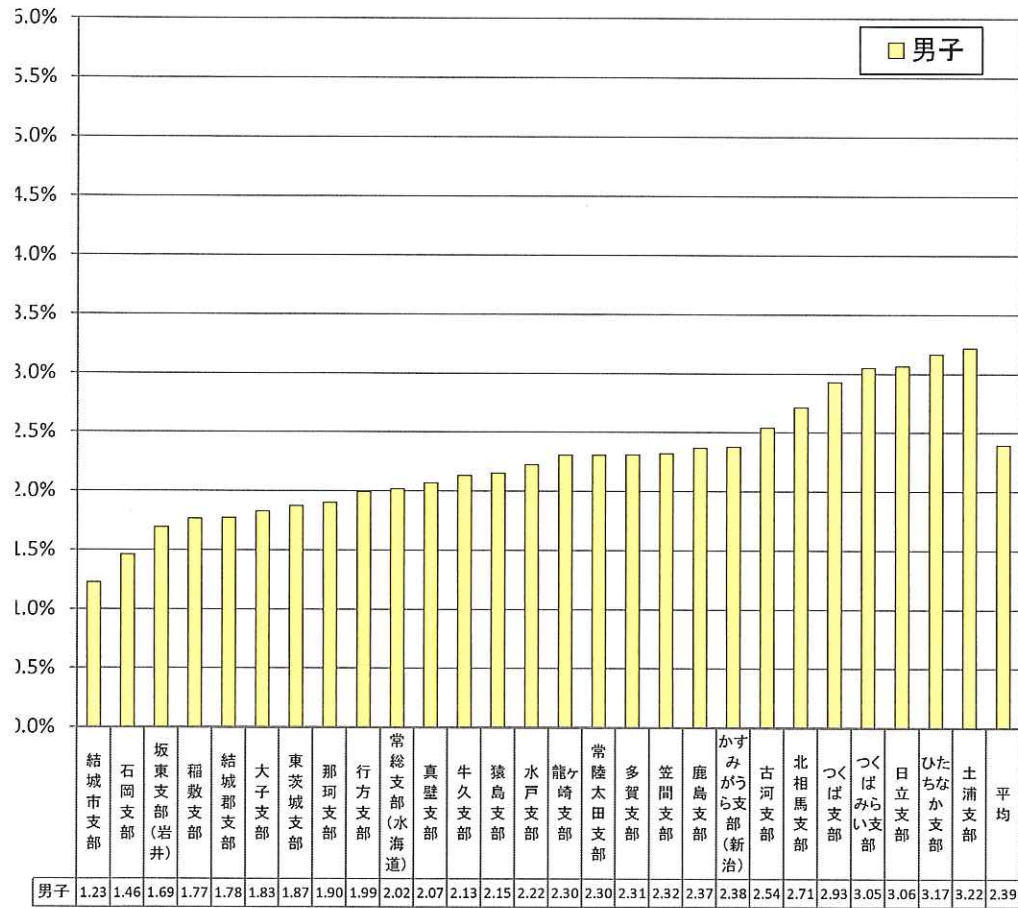
図28－2



平成30年度支部別やせの割合[中学校]

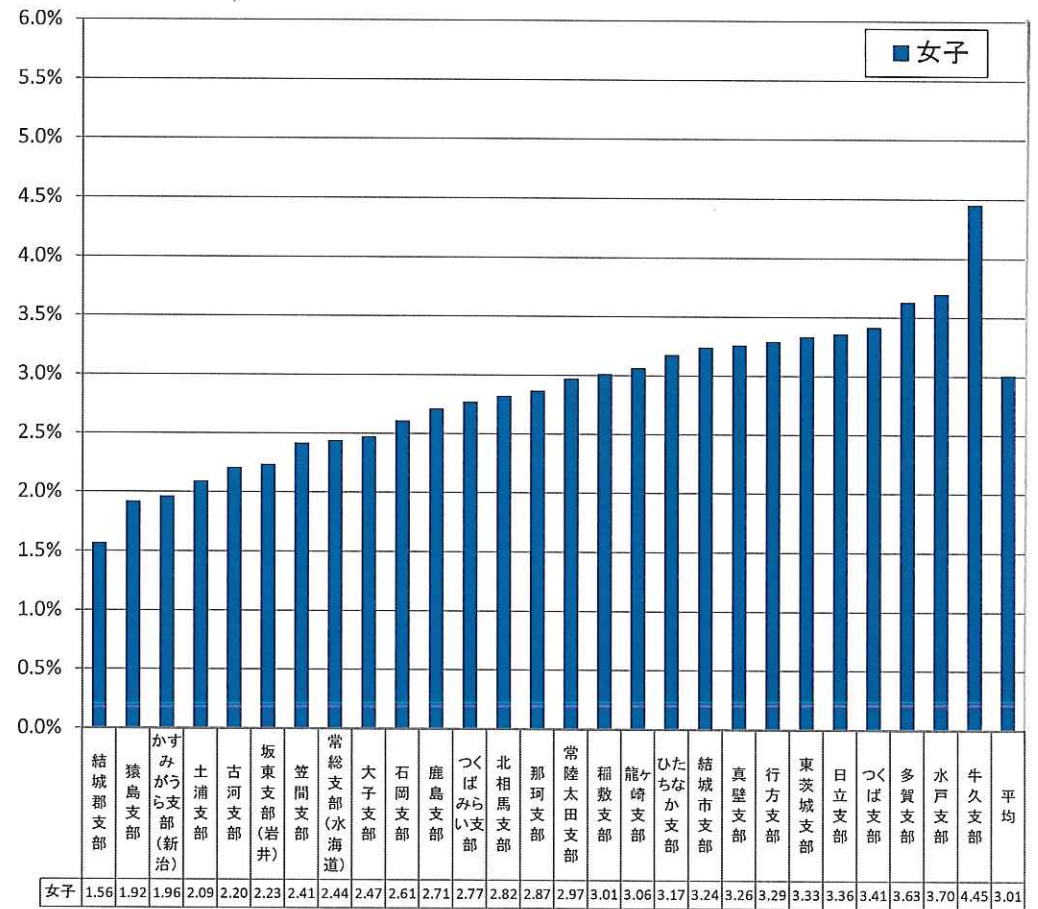
[男子]

図29-1



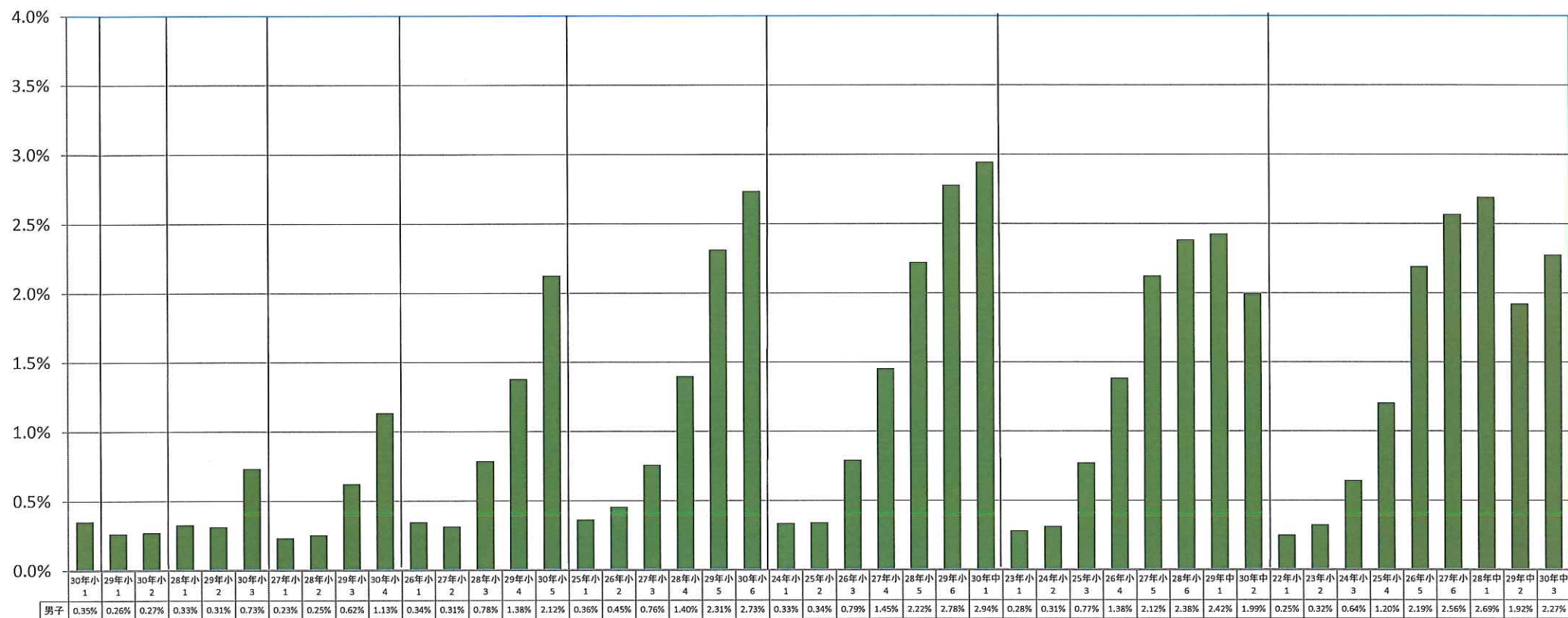
[女子]

図29-2



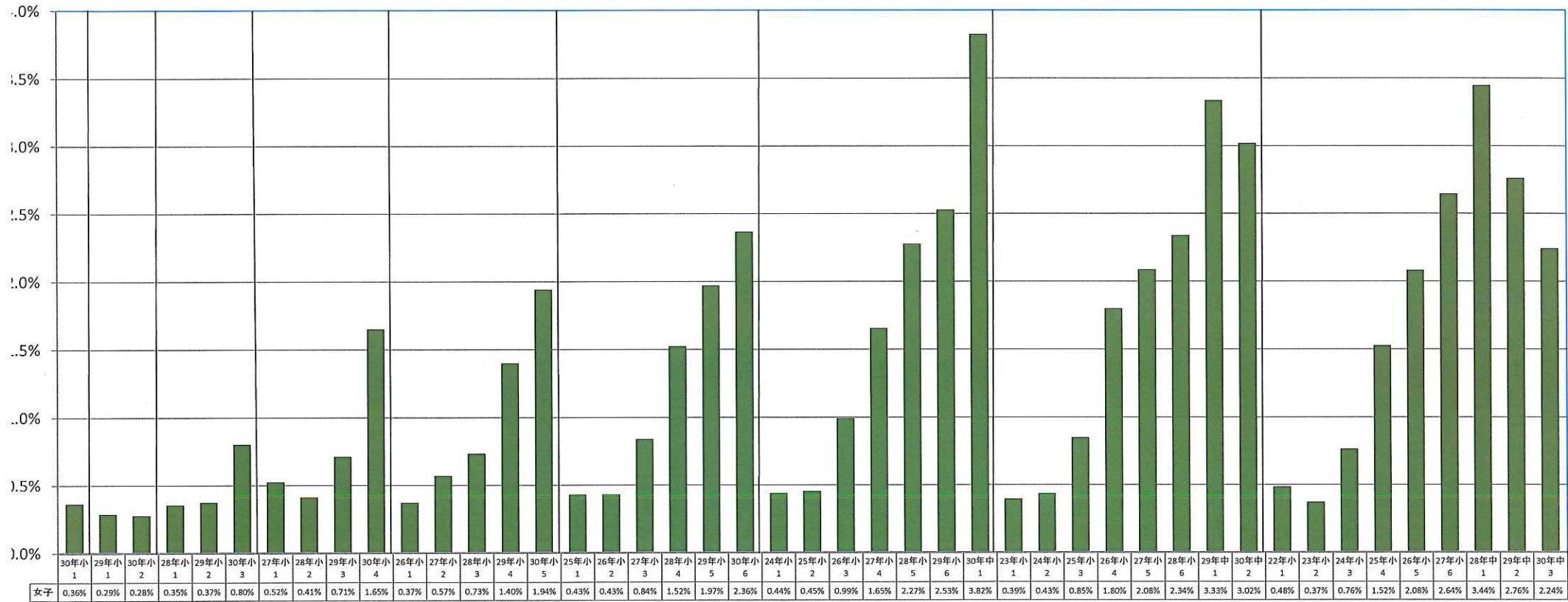
同一集団のやせの9年間の経時推移[男子]

図32



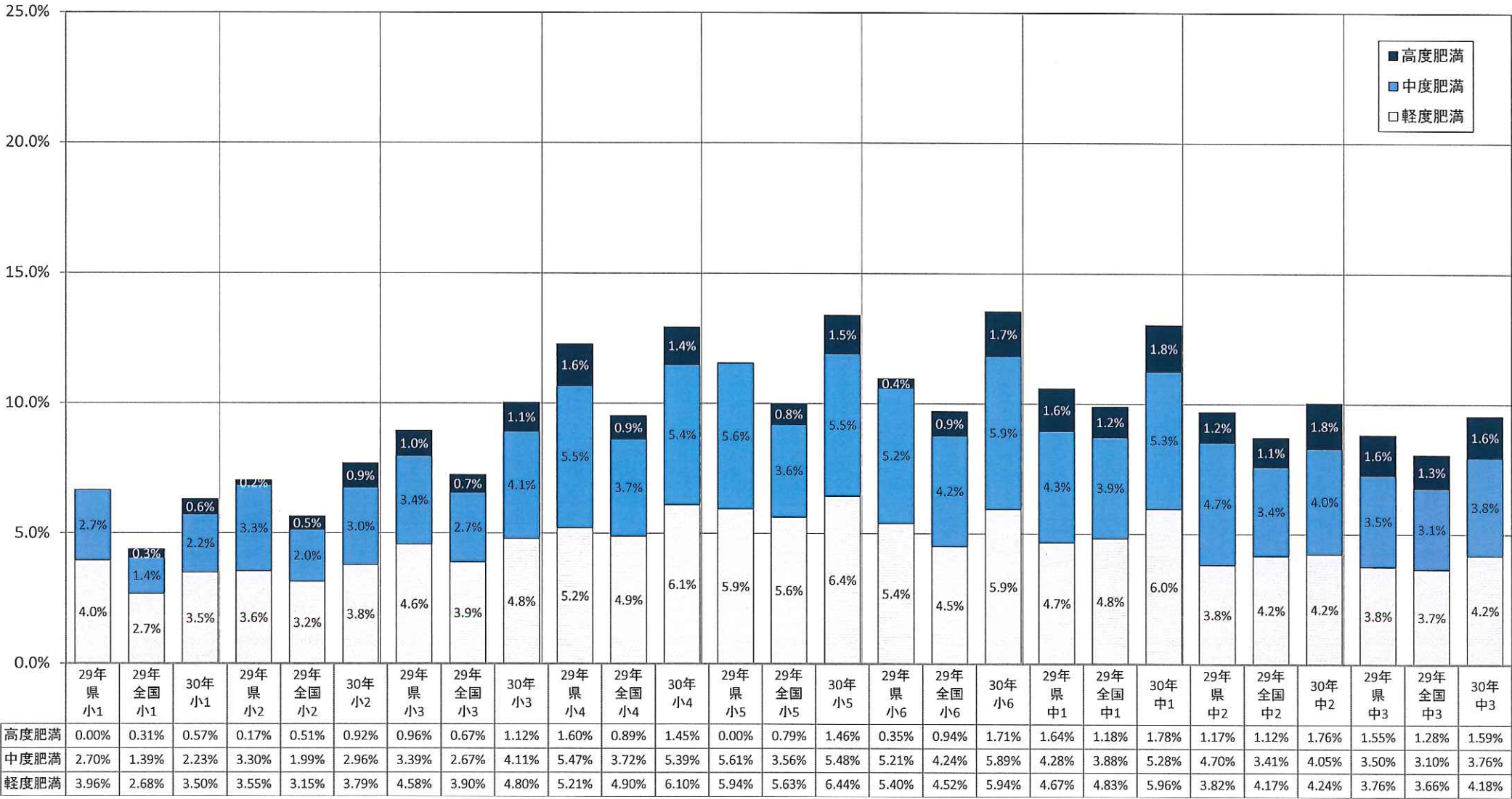
同一集団のやせの9年間の経時推移[女子]

図33



平成30年度学年別肥満児の全国との比較[男子]

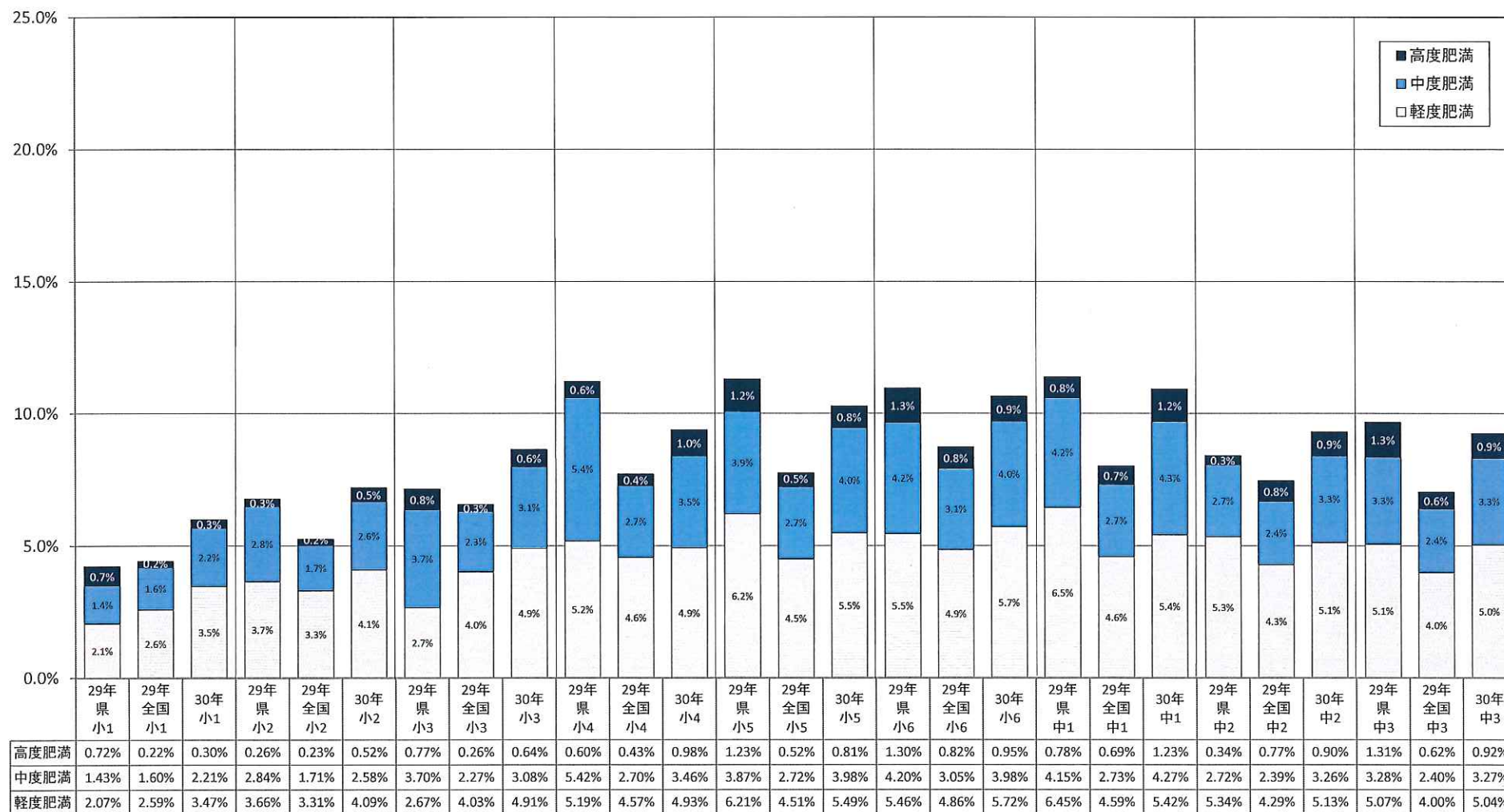
図34



※ H29年度県・全国の数値は、文部科学省実施の学校保健統計調査結果を引用

平成30年度学年別肥満児の全国との比較[女子]

図35

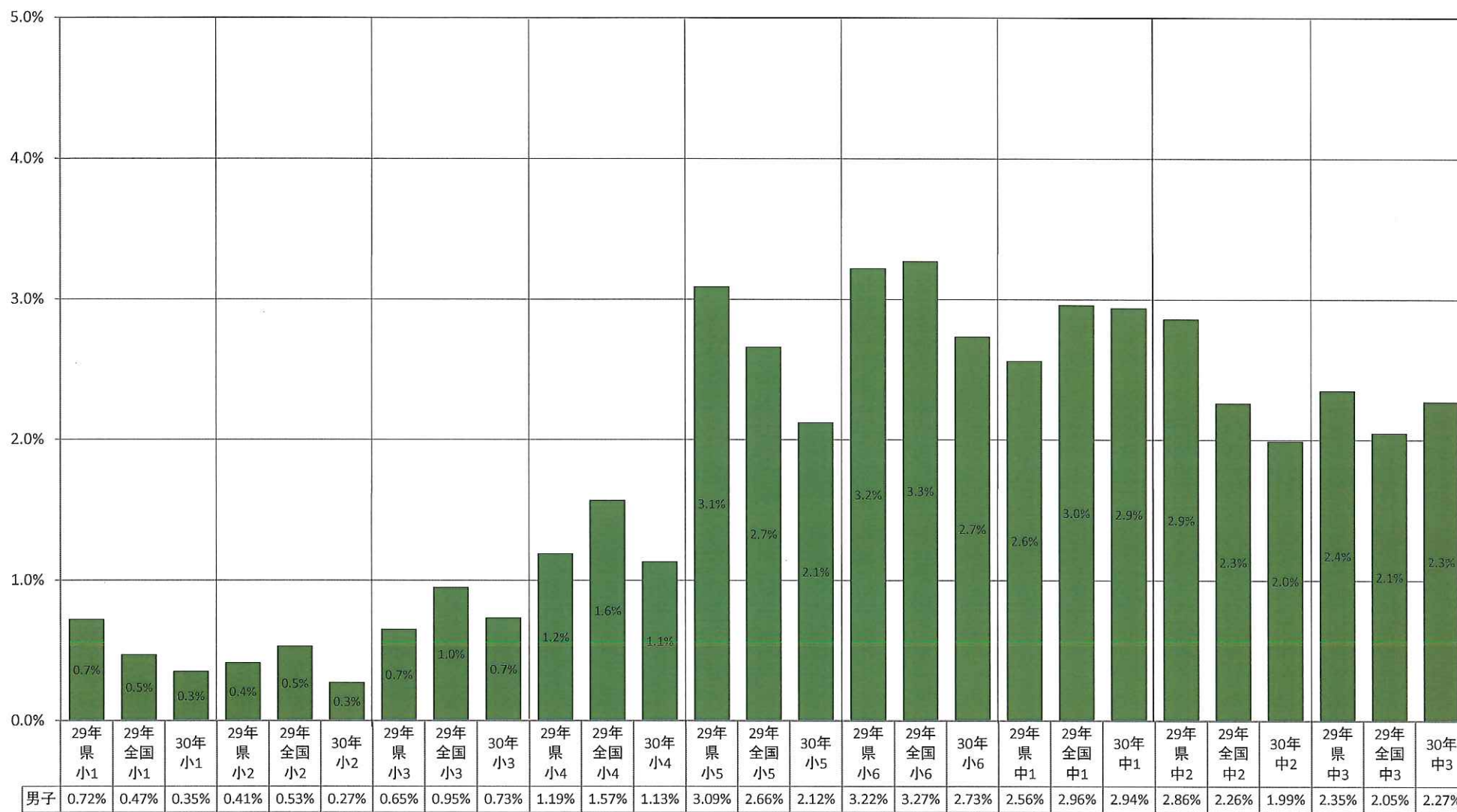


※ H29年度県・全国の数値は、文部科学省実施の学校保健統計調査結果を引用

平成30年度学年別やせの全国との比較[男子]

■ 男子

図36

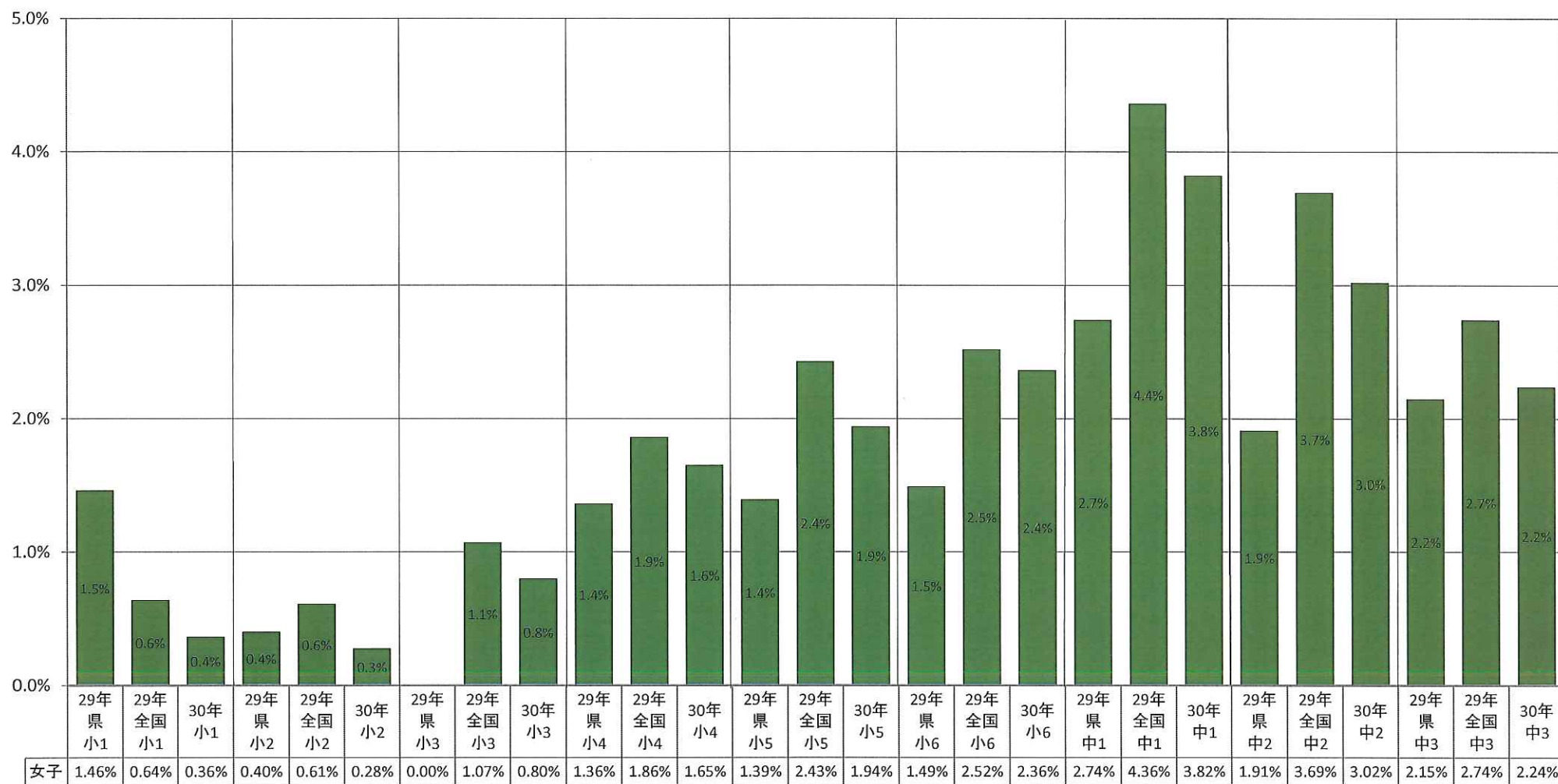


※ H29年度県・全国の数値は、文部科学省実施の学校保健統計調査結果を引用

平成30年度学年別やせの全国との比較[女子]

■ 女子

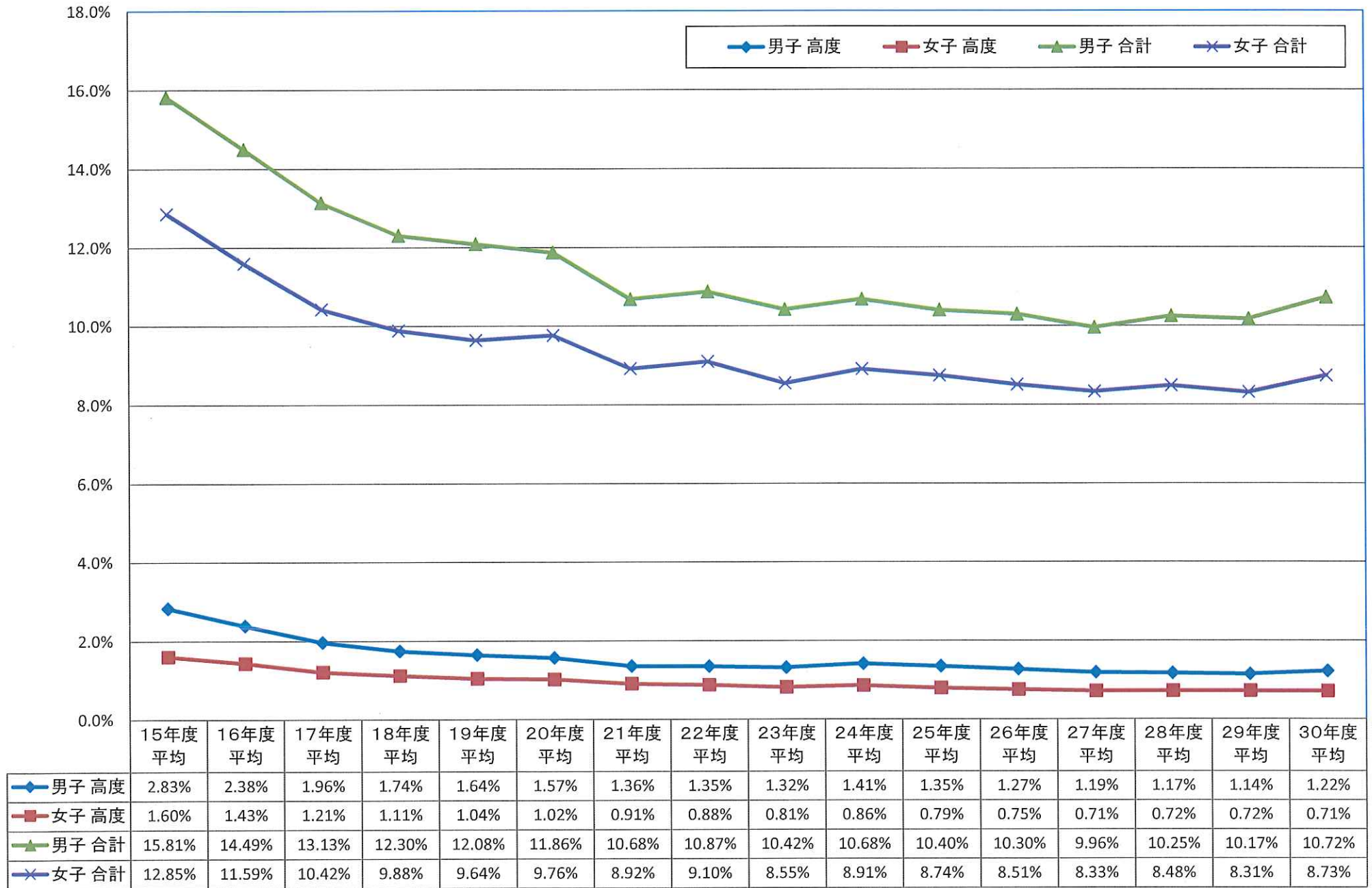
図37



※ H29年度県・全国の数値は、文部科学省実施の学校保健統計調査結果を引用

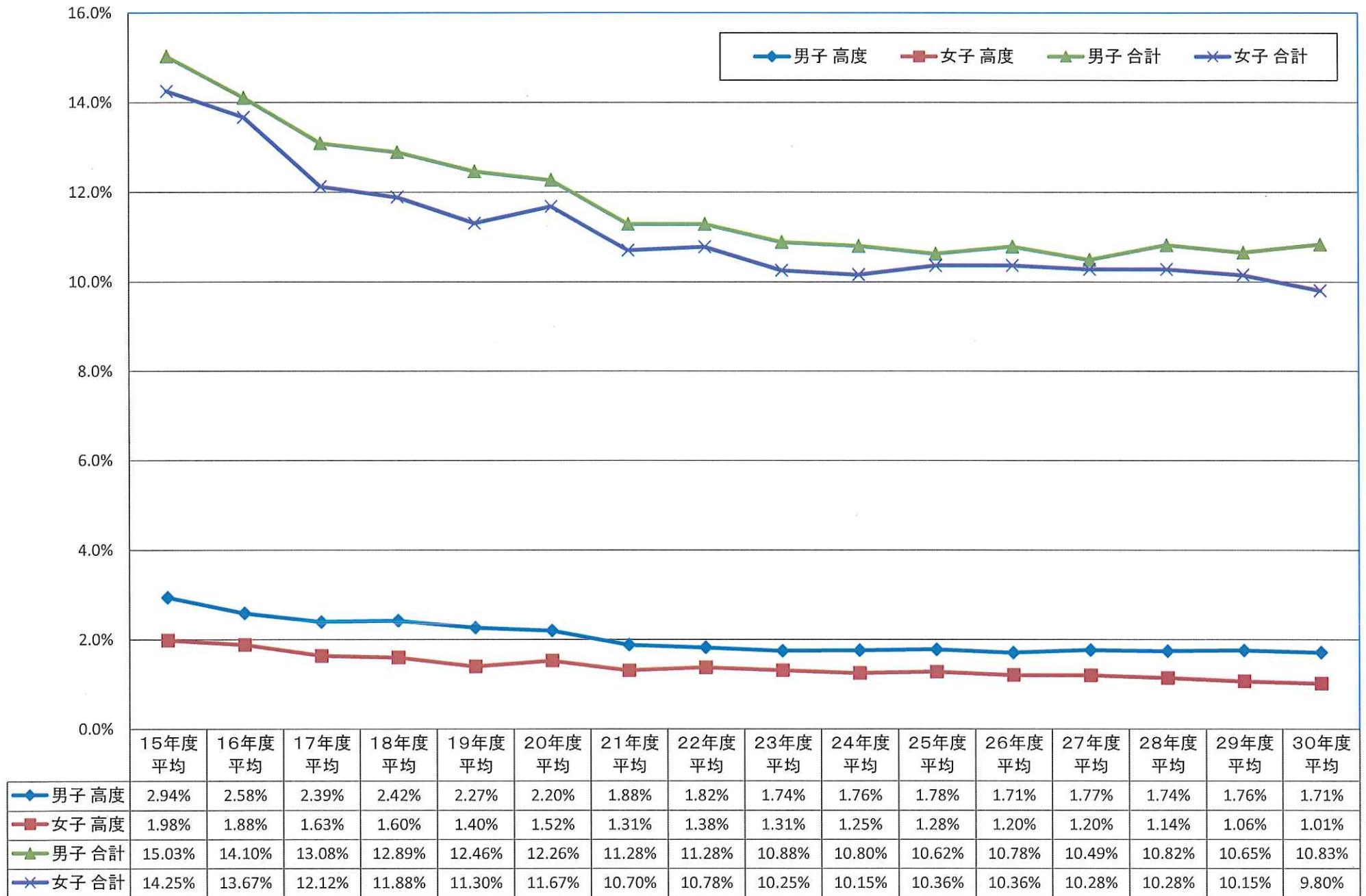
男女別肥満児及び高度肥満児の割合の推移[小学校]

図4



男女別肥満児及び高度肥満児の割合の推移[中学校]

図8



平成30年度肥満調査結果の考察

平成14年度から行っている肥満調査（やせについては平成16年度から調査）を、茨城県学校保健会27全支部の協力を得て、県内の小学生146,709名、中学生72,099名、計218,808名を対象に実施し、その結果をまとめた。

1 肥満児について

(1) 小学校（図1, 図2, 図3, 図4）

- ・今年度の割合は9.75%と昨年度より0.48ポイント増加した。今年度は27支部中23支部で増加が見られた。近年5年間を比べると、肥満児の割合は低い支部で7%台、高い支部で13%台と差が大きい。
- ・30年度でみると、男子で肥満児の割合が低い支部は、牛久・つくば・つくばみらい、高い支部は大子・結城郡・猿島で、女子で肥満児の割合が低い支部は、北相馬・つくばみらい・つくば、高い支部は行方・猿島・かすみがうらだった。
- ・男女を比較すると男子の方が肥満児の割合が高く、男子10.72%、女子8.73%だった。男女ともに昨年度より肥満児の割合が増えた。
- ・高度肥満児の割合も男子の方が高いが、男子は1.2%台で微増、女子は0.7%台で横ばいの状態である。

(2) 中学校（図5, 図6, 図7, 図8）

- ・中学校の今年度の割合は、10.33%と昨年度より0.07ポイント減少した。肥満児の割合は低い支部で8%台、高い支部で13%台と差が大きい。
- ・30年度でみると、男子で肥満児の割合が低い支部は、那珂・日立・北相馬、高い支部は坂東・多賀・結城郡、女子で肥満児の割合が低い支部は、日立・北相馬・牛久、高い支部は大子・常総・結城郡だった。
- ・中学校も小学校と同様の傾向がみられ、男子10.83%、女子9.8%で、男子の方が肥満児の割合が高い。男子は昨年度より微増し、女子は減少した。
- ・高度肥満児の割合も男児の方が高いが、近年は男児は1.7%台、女子は1%台前半で男女とも横ばいの状態である。

(3) 小・中学校比較（図9）

- ・中学校の方が肥満児の割合は高く、小学校9.75%、中学校10.33%だった。

(4) 学年別男女別の年次推移（図10, 図11, 図12, 図13）

- ・小学生は、小6女子以外すべての学年で昨年度よりも肥満児の割合が増加した。学年が上がるにつれて肥満児の割合が増加する傾向は例年と同じである。
- ・中学生は男女とも、中1から中2で肥満児の割合が減少して、中2から中3ではあまり変わらない。

(5) 同一集団の9年間の経時推移（図14, 図15）

- ・同一集団で見ても、男女とも年次推移の結果と同じ傾向であり、学年が上がるにつれ肥満児の割合は増加した後、中1から中2で減少した。その後男子は中3で微増、女子はさらに減少していたが、小1から中3までの推移をみると男女とも肥満児は増加している。

(6) 高度肥満について

① 小学校（図16, 図17）

- ・支部別の6年間の高度肥満児の平均値の低い支部は、男子で牛久・ひたちなか・那珂、

女子で北相馬・牛久・つくばみらいだった。一方、高度肥満児の平均値の高い支部は、男子で稲敷・結城郡・坂東、女子で大子・常総・かすみがうらだった。平均は、男子 1.22%，女子は 0.73% だった。

② 中学校(図 18, 図 19)

- ・支部別の 6 年間の高度肥満児の平均値の低い支部は、男子で常陸太田・那珂・水戸、女子で牛久・日立・ひたちなかだった。一方、高度肥満児の平均値の高い支部は、男子で石岡・常総・坂東、女子で東茨城・常総・かすみがうらだった。平均は、男子 1.74%，女子 1.15% だった。
- ・小学校と比較すると、男女とも、中学校の平均値の方が高かった。

③ 同一集団経時推移〔高度肥満〕(図 20, 図 21)

- ・同一集団の小 1 から中 3 の高度肥満児の経時推移を見て、小 1 と中 3 の割合を比較すると、男女とも、その割合が中 3 の方が高くなっている。

④ 中 3 肥満児の割合と小 1 肥満児の割合の差〔同一集団・入学年度別〕(図 22)

- ・小 1 と中 3 を比較すると、肥満児の 9 年間の差は、平成 15 年入学の女児を除いて、全ての集団でプラスになっている。9 年間の小 1 と中 3 の差は、入学年度によって違いが見られるが、近年 3 年間のデータについて、男女を比較すると、肥満合計・高度肥満とも男子の方が、差が大きくなっている。

2 やせについて

(1) 支部別小中別やせの割合 (図 23, 図 24, 図 25, 図 26, 図 27)

- ・小学校は昨年とほぼ同じ 1.25%，中学校は昨年度より 0.21 ポイント増加して 2.69% だった。
- ・調査開始時からのやせの割合の推移をみると、小中男女ともその割合は高くなっている。
- ・小中の割合を比較すると、小学校より中学校の方がやせの割合が高い。

(2) 支部別男女別やせの割合 (図 28, 図 29)

- ・男女で比較してみると、支部によって男女に違いがみられる。30 年度は小学校は男子 1.24%，女子 1.25% でほぼ同じだった。中学校は男子 2.39%，女子 3.01% で女子の方がやせの割合は高かった。

(3) 学年別男女別の 10 年間の年次推移 (図 30, 図 31)

- ・男子は小 2 から中 1 にかけてやせの割合が増加し、中 2 で減少、中 3 で再度増加している。
- ・女子も小 2 から中 1 にかけてやせの割合が増加するが、その後減少している。

(4) 同一集団のやせの 9 年間の経時推移 (図 32, 図 33)

- ・男女とも 10 年間の年次推移の結果と同じ傾向である。小 2 から中 1 にかけて割合が増加し、男子は中 2 で減少するものの中 3 で増加し、女子は中 2・中 3 と減少している。

3 全国平均との比較

(1) 肥満児の割合 (図 34, 図 35)

- ・男女ともすべての学年で全国平均を上回っている。
- ・男子は学年が上がるにつれて全国平均との差が開くが、小 6 をピークに肥満児の割合は減少して全国平均に近づくが、中 3 でまた差が開いた。

- ・女子も全国平均との差は大きいですが、中1をピークにその後緩やかではあるが、減少傾向がみられた。

(2) やせの割合 (図 36, 図 37)

- ・男子は小1から中2まで、やせの割合は全国平均を下回っているが、中3では全国平均を上回っていた。
- ・女子はどの学年もやせの割合は全国平均を下回っているが、中1までやせの割合は、学年が進むごとに増加している。その後、中2・中3とやせの割合は減少していく。全国平均と同じ傾向だった。

4 まとめと今後の課題

平成14年度から肥満調査を実施してきて、年々順調に減少してきた肥満児の割合は平成19年度頃から減少率が緩やかになり、小学校では隔年で増減がみられる状況であるが、今年度もその割合は9%台を維持していた。中学校の肥満児の割合は、今年度は昨年度よりも0.15ポイント減少し、10%台を維持している。小・中学校とも、年によって増減を繰り返す。小学校では10%未満が10年間、中学校では11%未満が8年間続いている。現状の対策ではこれ以上の減少はないと思われるが、さらに次年度以降の動向に注目していきたい。

全国平均と比較すると本県はまだまだ肥満児の割合が高い。同一集団の経時変化の推移から、肥満の割合は入学後も増加していき、中学校入学後にある程度は減少するが、中3時には小1の時よりもその割合は増加している(図20, 21)。また、同一集団・入学年度別の高度肥満児の中3の割合と小1の割合の差は、調査開始以来全ての年度でプラスになり、高度肥満児は増加している(図22)。支部別6年間の高度肥満児の割合平均値のグラフ(図16～図19)から、高度肥満児の割合の高い支部と低い支部の並び順は昨年度の同じグラフとあまり変わらない結果であった。高度肥満児の割合を単年度で見ると、年によって違いが見られるが、6年間の平均値で見ると、並び順は大きく変わらないことがわかった。

高度肥満の解消の難しさを考えると、今後も就学前の幼児期や小学校低学年での肥満を解消するための対策を講じるとともに、標準から中等度の段階で、肥満度が高くなってきた児童への指導にも目を向けていきたい。今年度も、県内公立幼稚園・こども園にも『小児肥満の予防対策について(依頼)』を配付し、幼児期肥満の誤解や笠間市かさまこども園の「運動遊び研修会」の取組などを取り上げ、指導者の意識を高めることにも取り組んだ。今後も、幼稚園や保育所との連携を継続して、幼児期からの肥満対策を進めていく必要があると考える。また、小・中学校では、健康手帳に記載されている肥満度判定曲線や文部科学省から配付された子どもの健康管理プログラムなどの成長曲線も活用していきたい。

また、肥満児の多い地域、少ない地域にやや変化が見られたが、生活習慣はもとより、地域のいろいろな環境など特色も関係すると考えられる。保護者や学校医・学校歯科医・学校薬剤師や行政など、地域関係機関などと連携し改善を図る必要がある。基本は児童生徒及び保護者なので、その意味でも、引き続き生活習慣記録表の活用を呼びかけていきたい。そして週3日1時間の運動や外遊び、『朝ごはん100%』の推進、よくかんで食べる、毎日の体重測定など、多職種が今後も連携をしながら生活習慣を見直す手立てを講じて肥満対策への取組をさらに進めて行いたい。特に、幼児期から小学校3年生までの肥満児童の医療機関への受診率を上げるような働きかけを継続したい。

やせの割合は今年度も中3の男子の割合が全国平均を上回る結果になっていた。よりよい生活習慣を身につけ、心身に起こっている変化を見落とさないよう、肥満児と同様、注意して個別に見ていく必要がある。